

私たちの暮らしを支えているものの一つに「税」があります。正直に言うと、私はつい最近まで税に対して「大人が払うお金」というイメージをもっていました。ですが実際に調べてみると、教科書や道路、病院など私たちが普段当たり前のように使っているものは多くの税で支えられていると知り、意外と身近なものだと気づきました。そこで私は、税のことを自分に一番身近な音楽にたとえてみました。楽器の音は一つだけだとただの音ですが、他の楽器と合わせると曲になり、ハーモニーが生まれます。税も同じだと思います。一人一人が少しずつ納めるからこそ、社会全体を支える大きな力になるのです。私は曲を聴いているとき、必ずメロディーに注目します。小さな音一つ一つが大切で、その音の重なりから曲が完成していると思います。これも税に似ています。納める額が大きくても小さくても、みんなが協力しているからこそ社会は動いているのだと思います。音楽には、「未来へ受けつがれる」という面もあります。昔の作曲家が書いた曲を、今の私たちが授業で学ぶように税も未来へつながっています。子供たちが勉強できる学校や、公園で安心して遊べる環境を守るために、税は使われています。音楽が時代をこえて人をつなぐように、税も世代をこえて暮らしを支えているのです。

もちろん、音楽も完璧ではありません。音がそろわなかったり、誰かがテンポを速めてしまったりすると、演奏全体が崩れてしまいます。税も同じで、不公平差や無駄づかいがあれば、信頼がなくなります。だからこそ、どうすればよりよく使えるのかを考えることが大切だと思います。将来どんな道を進むとしても、社会の土台がしっかりしていなければ安心して夢を追うことはできません。税が正しく使われることで、私たちの生活も豊かになります。税というと、難しくて固いイメージがありました。でも音楽とくらべてみると、私たち一人一人が大切な「演奏者」であり、みんなの協力で社会という大きな曲を奏でているのだと思えるようになりました。私はこれからも、その一員として小さな音、小さな積み重ねを大切に過ごしていきたいです。また、これから私は、音楽のように「調和」を大切にしながら、税の役割についても考え、税はただのお金を集めるものではなく、社会全体を支える大切な仕組みであるということに自覚をもてるようにしていきたいです。